11月6日のウクライナ情報

安斎育郎

❶ウクライナ当局がアメリカの政治家にキックバックした裏金を公表した（2023 年 11 月 4 日）

バイデン 138億円 相当（下の表の金額の単位は 100 万ドル＝1億5千万円）。バイデンは 92x1 億5千万円＝138 億円。

❷ゼレンスキー氏、「疲れ切り西側に失望」 会見の米誌報道（CNN，2023年11月4日）

（CNN）米週刊誌「タイム」は4日までに、ウクライナのゼレンスキー大統領と会見し、同大統領は支

援国のウクライナに対する信頼をつなぎとめる絶え間ない努力を注いでいるため、疲れ切っているなどと報じた。

ゼレンスキー氏は「誰も私のようには我々の勝利を信じていない。誰もがだ」とし、「支援国にその信念をしみこませるためには私の全てのエネルギーが必要だ」と明かした。

同誌は「大統領は疲れている。時には短気になる。支援国の援助がしぼむことを心配している」とも伝えた。ウクライナでの戦闘への「疲労感は波のように寄せている。米国や欧州でこれを見ることができる」と指摘したという。

ゼレンスキー大統領は勝利にこだわっており、休戦や交渉は支持しないとも述べたとした。

イスラム組織「ハマス」とイスラエル軍との交戦に関連し、「当然、ウクライナの問題への関心は中東での事態のため薄れている」とも認めた。

タイム誌はゼレンスキー大統領の側近の話として、「大統領は西側の支援国に裏切られたとも感じている」とも伝えた。支援国は戦争の勝利に必要な手段を与えず、ただ事態を切り抜けるための手段を提供しているとの思いを抱いているとした。

長射程の米戦術ミサイル「エイタクムス」の供与決定に時間がかかり、ウクライナ側が切望していたF16型戦闘機の到着が早くても来春になるなど速度感に欠ける支援のあり方は、ロシアを利するだけとの不満につながっている。

https://www.msn.com/ja-jp/news/world/%E3%82%BC%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%AD%E3%83%BC%E6%B0%8F-%E7%96%B2%E3%82%8C%E5%88%87%E3%82%8A%E8%A5%BF%E5%81%B4%E3%81%AB%E5%A4%B1%E6%9C%9B-%E4%BC%9A%E8%A6%8B%E3%81%AE%E7%B1%B3%E8%AA%8C%E5%A0%B1%E9%81%93/ar-AA1jmMhY?ocid=msedgntp&pc=LCTS&cvid=592d5ac4e77345238607f50d8b793a57&ei=8

❸ウクライナ全域にイラン製の自爆型無人機でインフラ施設攻撃、西部リビウも標的に（讀賣新聞、2023年11月4日）

ウクライナ軍当局によると、ロシア軍は3日未明、ウクライナ全域で無人機攻撃などを行った。イラン製自爆型無人機「シャヘド」約40機やミサイルが使われ、ウクライナ西部リビウも標的になった。負傷者は報告されていないが、インフラ施設などに被害が出た。

攻撃は首都キーウや南部オデーサ州、ザポリージャ州でもあった。東部ハルキウ州では大規模な

火災が発生し、住宅や教育施設、給油所も被害を受けた。

ウォロディミル・ゼレンスキー大統領は無人機の半数以上を撃墜したと明らかにし、「冬が近づくにつれ、ロシアのテロリストはさらに被害を与えようとするだろう。我々は反撃する」とSNSに投稿した。

露占領下にあるウクライナ南部ヘルソン州では、ウクライナ側のミサイル攻撃で7人が死亡したと露側が明らかにした。

https://www.msn.com/ja-jp/news/world/

❹苦境ウクライナ軍、南部反攻の旅団をアウジーイウカ防衛に投入（Forbes Japan, 2023年11月4日）

ウクライナ軍は東部ドネツク州の防御拠点アウジーイウカ周辺で、貴重なドイツ製レオパルト 2A6 戦車を 1 両失った。今週のことだったようだ。

損失は故障の結果だった可能性があり、乗員 4 人は故障後、脱出を余儀なくされている。いずれにせよ、今回のレオパルト 2A6 損失は 2 つの理由で注目すべきものだ。

1 つ目は、ウクライナ側にとって残念なことに、レオパルト 2 戦車の損失がさらに膨らんだという点だ。ウクライナ軍はこの 1 週間あまりで、レオパルト 2A4、レオパルト 2A6、装甲を増強したスウェーデン版レオパルト 2A5 の Strv 122 を少なくとも計 12 両、もしかすると 13 両損耗した。レオパル

ト 2 は、ウクライナ軍が保有するドイツ製戦車としては最高の戦車である。
　ウクライナ軍は先週以前にもレオパルト 2 を 6 両失っており、合計すると全体の 4 分の 1 を失った計算になる。ウクライナを支援する西側諸国はウクライナに計 85 両のレオパルト 2 供与を確約し、これまでに 71 両を引き渡していた。
　2 つ目は、このレオパルト 2A6 が失われた場所と、それがウクライナ軍の戦争計画において意味することだ。ウクライナ軍でレオパルト 2A6 を運用する部隊は、陸軍の第 47 独立機械化旅団だけである。つまりレオパルト 2A6 がアウジーイウカ周辺に現れたということは、第 47 旅団の全体もしくは大半がドネツク市のすぐ北西のこの町に出てきているということを意味する。
　第 47 旅団は最近まで、南部ザポリージャ州で反転攻勢に参加していた。6 月上旬の反攻開始後 4 カ月にわたる激戦で、第 47 旅団を主力とするウクライナ軍部隊は、ロシア占領下のメリトポリに向かう戦略上重要な軸で 16 キロメートルほど前進を遂げた。
　第 47 旅団にとってこの数カ月は過酷なものだった。21 両のレオパルト 2A6 のうち数両のほか、米国製 M2 ブラッドレー歩兵戦闘車も数十両失った。さらに、歩兵や車両乗員の損害も数百人規模で出した可能性がある。損害があまりに深刻だったため、ウクライナ軍参謀本部は戦闘のさなかに旅団司令部の入れ替えを迫られたほどだ。
　南部での反攻の勢いが弱まった 10 月、第 47 旅団は休息やリセットの時期に入っていたようだ。一部の部隊については、前線の後方で訓練している様子が撮影されている。
　ロシア軍の第 2 諸兵科連合軍が、アウジーイウカのウクライナ軍守備隊に対し、数個旅団を投入する猛攻を始めたのは同月 10 日のことだった。ウクライナ軍の守備隊には、疲弊した第 110 独立機械化旅団などが含まれる。ロシア軍攻撃が、別の前線で反攻作戦を進めるウクライナ軍の旅団をそこから引き剥がし、アウジーイウカ防衛戦に張り付ける狙いなのは明らかだった。
　しばらくの間、ロシア側の狙いどおりにはならなかった。「ウクライナ当局は、アウジーイウカへの攻勢はロシア側による『固定作戦』だと認識しており、この軸に過剰な兵力を投入する公算は小さい」ワシントン D.C.にある戦争研究所（ISW）は 11 日時点でそう指摘している。
　だが、ロシア軍が波状的に続ける正面攻撃によって双方で損害が拡大するなか、ウクライナ軍指導部は第 47 旅団の少なくとも一部の大隊や中隊を訓練地から引き揚げさせ、アウジーイウカに転用した。
　転用された部隊には、明らかに第 47 旅団唯一の戦車中隊も含まれていた。この中隊の使用可能なレオパルト 2A6 は、先週以前の段階ではたぶん 18 両だっただろう。
　現在は 17 両になった。レオパルト 2A6 などの戦車を必死に保持しようとしている疲弊した旅団を投入するほど、ウクライナ軍指導部がアウジーイウカをめぐる状況に懸念を募らせているのは明らかだ。
　第 47 旅団がレオパルト 2A6 を失ったのは、ウクライナ東部の別の防御区域で戦っていた第 21 独立機械化旅団が Strv 122 を失ったのと同じころだ。Strv 122 が撃破されたのはこれが初めてかもしれない。また、南部では第 47 旅団と入れ替わった第 33 独立機械化旅団が、40 両のレオパルト 2A4 のうち 7 両目か 8 両目を失った。
　ウクライナ側の戦車損失は、大半が地雷攻撃、爆薬を積んだドローン（無人機）のトップダウン攻撃、あるいはその両方によるものとなっている。少なくとも 1 両（Strv 122）は対戦車誘導弾によってやられている。直近のレオパルト 2A6 の損失は、機械的な故障が原因になった可能性がある。
　痛ましいことに、第 47 旅団は、脱出したレオパルト 2A6 の乗員を連れ戻すために送った M2 まで

失ったもようだ。
　ロシア軍はウクライナ軍の車両、なかでも戦車をとくにドローンで仕留めるのがうまくなっている。ウクライナ軍がそれにも増してロシア軍の車両を破壊するのがうまくなっているのは、多少の慰めにはなるかもしれない。
　確かに、ウクライナ側はここ数週間でレオパルト十数両、T-64 や T-72 両戦車を計 20～30 数両失った。それに対して、ロシア側はアウジーイウカを攻略しようとして失った T-62、T-64、T-72、T-80、T-90 各戦車は合計で数百両にのぼる可能性がある。
　ウクライナ側は、24 時間でロシア軍の戦車 55 両を破壊したとも主張している。
（forbes.com 原文）

https://www.msn.com/ja-jp/news/world/

❺ベン・シャピロはどうやってこれを擁護して夜も眠れるのか？（2023年11月４日）

※安斎注：ベン・シャピロはアメリカ保守派の政治評論家。
https://twitter.com/i/status/1720515404118843441

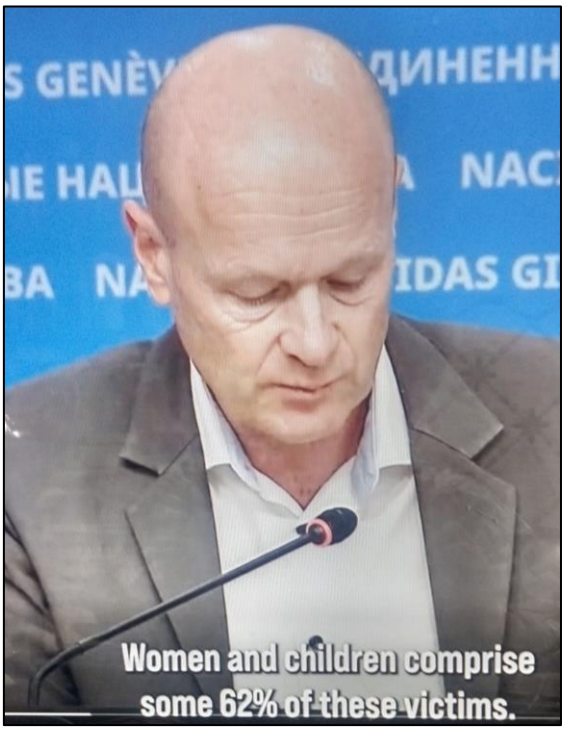
https://twitter.com/jacksonhinklle/status/1720515404118843441?s=09

❻イスラエルーハマス戦争の被害（国連、2023年11月4日）

「パレスチナ人の死者数は 9,061 に達し、犠牲者の 62%は女性と子どもです。」- 国連人道問題調整事務所

「入植者による暴力もまた劇的に悪化しています。平均で 1 日に 7 件で、1/3 以上の襲撃で火器が使われています。」- 国連人権高等弁務官事務所

https://twitter.com/i/status/1720486231690059912



https://twitter.com/UNIC_Tokyo/status/1720588261989785935?s=09

❼国連人権総長、憎悪の高まりを非難（2023年11月4日）

ジュネーブ（2023 年 11 月 4 日） - 国連人権高等弁務官フォルカー・テュルクは本日、10 月 7 日以降、反ユダヤ主義やイスラム恐怖症を含む憎悪が世界的に急増していることを強く非難すると同時に、イスラエルとガザの紛争をめぐる抗議行動やそれに関連する表現の自由に対する不当な制限に懸念を表明した。

同高等弁務官は、10 月 7 日以降、オンライン、オフラインを問わず、反ユダヤ主義、イスラム恐怖症、その他のヘイトスピーチが急増していることに嫌悪感を抱いていると述べた。

「この危機の影響は、地域レベルでも世界レベルでも劇的だ。「パレスチナ人とユダヤ人の人間性を失わせ、あらゆる地域に衝撃を与えました。ヘイトスピーチや暴力、差別が急増し、表現の自由や平和的集会の権利が否定されるとともに、社会的亀裂や分極化が深まっている。

「ユダヤ教徒からもイスラム教徒からも、安全だと感じられないと聞いています。

アメリカ大陸、アジア太平洋地域からヨーロッパ、アフリカに至るまで、イスラム嫌悪や反ユダヤ主義的な嫌がらせ、攻撃、ヘイトスピーチが、紛争に関連する抗議活動の文脈も含めて増加している。 家や宗教的な建物は、脅迫的なシンボルや、恐怖を与え憎悪を誘発するような画像やメッセージで汚されている。扇動的で有害で憎悪に満ちたレトリックは、政治指導者たちによっても使用されている。

「同時に、邪悪な言葉は卑劣な行為を伴っている。この行為は、街頭だけでなく政治指導者たちにも見られる非人間的で悪質な言葉によって助長されたことは間違いない。

「ソーシャルメディアも含め、憎悪に満ちた言葉の奔流は忌まわしいものだ。「国際人権法はこれに関して明確である。差別、敵意、暴力の扇動となる、国家的、人種的、宗教的憎悪の擁護は禁止されています」。

このような環境においては、平和的集会と表現の自由に対する権利が確実に守られるようにすることも重要である、と高等弁務官は述べた。10 月 7 日以来、何十万人もの人々が、憎悪や暴力を扇動することを容認しない、紛争に関連する抗議行動において、世界中でその権利を行使してきた。イスラエルとパレスチナ両国を支援するための行進や集会が開催された。国によっては、憎悪の扇動やテロリズムの賛美に関連するリスクなど、国家の安全保障に関わるリスクを理由に、広範な制限を課している。

「人権高等弁務官は、「緊張と感情が高まる中、人権を守るために指針となるべきは法律である。

「国家は参加と討論のための安全で可能な空間を確保しなければならない。紛争に関する参加や討論、批判的なコメント、あるいはイスラエル人やパレスチナ人に対する連帯の表明を不当に制限することはできない。

テュルクは、これらの措置に対する懸念を表明し、権利に対するいかなる制限も、市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）に合致している必要があると強調した。

「場合によっては、主に親パレスチナ派の抗議行動の文脈で、集会に対する包括的または不釣り合いな制限が見られる」とテュルクは述べた。

「平和的集会の権利に対するいかなる制限も、国家の安全や治安、公の秩序、公衆衛生や道徳の保護、あるいは他者の権利や自由の保護のために特に必要であり、かつその利益に見合ったものである場合、法律に基づくものでなければならない。

https://twitter.com/i/status/1720727007330283921

https://twitter.com/UNHumanRights/status/1720727007330283921

⑧こういう見方はどうか？（2023年11月4日）

ハマスは残虐な殺し方、赤ちゃんまで殺して、それを SNS で発信してる

つまりイスラエルをキレさせて、ガザを攻撃させ、ガザの民間人の犠牲者を出す事で、対イスラエル包囲網を築く事はでは無いか、その意図にどっぷりハマった日本のメディア。

https://twitter.com/hoshorei/status/1713486883723116880?s=09

❾ハマスを揶揄する風刺漫画（2023年11月4日）

https://twitter.com/drorzed/status/1720550669260566530?s=09

※関連コメント：元はといえばガザ地区を恐怖政治で支配するハマスが残虐な行為でイスラエルでテロを行ったから女、子供、赤ちゃんまで惨殺。赤ちゃんの頭を切り落とすような残虐行為。捕まえた女性をガザ地区で引きずり回し、その女性につば、尿をかけるハマス。そんなハマスにイスラエルが復讐に燃えても仕方がない。

https://twitter.com/kaba401/status/1713864387264716890?s=09

❿「終焉の始まり」 ウクライナ指導部がもう隠さない内部亀裂（2023 年 11 月 6 日）

ウクライナのゼレンスキー大統領が、前線の行き詰まり状況を公言した自国軍のヴァレリー・ザルジニー総司令官に否定的な反応を示したことは、同国の軍部と文民指導部の間に分裂が進んでいることを示唆している。米ニューヨーク・タイムズ紙が報じた。

ニューヨーク・タイムズ紙によれば、ゼレンスキー氏とザルジニー氏の間が戦略と司令官任命を巡り、対立という噂はすでに 1 年以上もキエフの中で流れていた。ところがそれが真実だったことが今回、公の場に漏洩した。

ニューヨークタイムズ紙は、ウクライナ軍の作戦はここ数か月、何の成功ももたらしておらず、欧州や米共和党議員の中ではウクライナ支援を続ける必要性を疑問視する声が高まっていると報じている。

「ゼレンスキー事務所は、ザルジニー将軍の厳しい発言のせいで同盟国の中に軍事支援を思いとどまる国がでてこないかと憂慮している」

不和のもう 1 つの兆候となったのが、ゼレンスキー氏がザルジニー総司令官の右腕の 1 人のヴィクトル・ホレンコ特殊作戦部隊司令官の解任。ニューヨーク・タイムズ紙は、この決定には米軍将校らも驚いたと報じている。

先週、宇軍のヴァレリー・ザルジニー総司令官は英紙「エコノミスト」からの取材に、ロシア側の防衛ラインを「深く、そして美しく突破することはできない」と回答し、ロシアの戦略を称賛し、ロシア軍を「見くびってはならない」と警告していた。

ロシア政府はこの報道に反応を示し、戦場で勝ち目はないことをウクライナがより早く悟れば、状況

打開の何らかの見通しも早く開けると答えていた。

https://sputniknews.jp/20231106/17612018.html

⓫【速報】ガザ退避 涙ながらに会見 国境なき医師団 日本人女性

イスラエル軍の空爆が始まってから、パレスチナ自治区ガザ南部に避難し、3 日前にラファ検問所からエジプトに脱出した、国境なき医師団の白根麻衣子さんが、日本時間 4 日午後に会見し、「家族の支えがあって耐えることができた」と涙ながらに語った。

国境なき医師団・白根麻衣子さん「（母が）あなただったら大丈夫、信じて待っていると言い続けてくれた。3 週間乗り切れたのは、家族の支えがあったから」、「昼夜問わずミサイルが発射されて、南部に避難したにもかかわらず、空爆が絶えることなく続いていました。人々が外に座って、雨や空爆の音に耐えながら、子供たちが本当に心細そうにしていたり、泣いていたのが忘れられない」

白根さんは、「病院や学校が空爆を受けていた。無差別攻撃は直ちにやめてほしい」と訴えていた。

https://news.yahoo.co.jp/articles/b432c18b94ab7423f3aaf48296a6d4d235c0f565?source=sns&dv=pc&mid=other&date=20231104&ctg=wor&bt=tw_up&s=09

⑫独副首相がハマスの殲滅を呼びかけ、「文明世界に対する宣戦布告」（2023年 11月５日）

ドイツ のハーベック副首相兼経済相（「緑の党」）は４日、パレスチナ の イスラム 主義組織「ハマス」による イスラエル への攻撃は「文明世界に対する宣戦布告」であるとし、組織の破壊を呼びかけた。ドイツ紙ヴェルト（Welt）が報じた。

副首相は党員に向けたビデオメッセージで、「本質的に言ってハマスは中東の和平プロセスを破壊した以上、殲滅する必要がある」と述べた。

副首相はパレスチナ人にも独自の国家を建国する権利はあるとしつつ、ハマスはこうした「二国家」形式を目指していないという。ハマスはパレスチナ人民による国家形成のために闘っているのではなく、「戦争そのもの」、「イスラエルの破壊」が目的だと非難。ハマスの行動は「政治的提案ではなく、文明世界に対する宣戦布告」と付け加え、組織の破壊を呼びかけた。

https://twitter.com/sputnik_jp/status/1720961371507134610/photo/1

⑬イスラエル軍によるガザ地区の家屋への爆撃の結果、恐怖に震える子供（2023年11月5日）

https://twitter.com/i/status/1721085311759896890

https://twitter.com/SprinterX99880/status/1721085311759896890?s=09

⑭明日緊急シンポ「とどまることを知らない暴力～私たちが今ガザで目にしていること～」（小寺隆幸さん情報、2023年11月6日）

平和博物館市民ネットの皆様

ガザでは 200 万の命が風前の灯火です。北から南への「人道回廊」とは名ばかりで、2 万もの人々が避難している北部の病院から動くすべはなく、イスラエルはハマス一人を殺すために多くの民間人や子どもを殺すこともやむをえないと公言しています。また南部へと追い詰められた人々の水も食料も尽き始めています。まるで沖縄戦のようです。ただ沖縄と違って周りは海ではなく、国際社会なのですが、、人々は、瀕死の子どもさえ壁を越えて出ることができず、地獄のなかに取り残されています。200 万の人々が殺されるのを私たちはただ見ていることしかできないのでしょうか。

昨夜の日比谷―銀座―東京駅のデモには 1600 名が参加しました。特に若い方、子ども連れの方、パレスチナをはじめ海外の方も多く参加し、ストップ・ジェノサイドの声を都心であげました。

明日、私の関わる明治学院大学で下記の緊急シンポ[無料]を行いますのでお知らせします

この現実をどうすべきか、共に考えたいと思います。

ウェビナー参加申し込みは下記に

https://zoom.us/webinar/register/WN_sxFxb0ZiQ-W0iDVTk8ibkQ

拡散を歓迎します

小寺隆幸（明治学院大学国際平和研究所研究員）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

PRIME 共催緊急シンポジウム

「とどまることを知らない暴力～私たちが今ガザで目にしていること～」

10 月 7 日に始まったハマスによる攻撃への報復として、イスラエルは、パレスチナ・ガザ地区を軍事包囲し、大がかりな空爆を行うだけでなく、本格的な地上戦に踏み込む準備を進めていると日々報道されています。明治学院大学国際平和研究所（PRIME）は、パレスチナの地に未曾有の惨状が広がることを懸念し、軍事行動の即時停止を強く求める緊急の声明を 10 月 16 日に発出しました。また、イスラエルとパレスチナで 1967 年から半世紀以上にわたり暴力の犠牲となっている人々に寄り添っている赤十字国際委員会（ICRC）は、「世界各地の紛争地で人道支援をしている私たちでも、ここまで凄惨な暴力の応酬はここ数年見たことがない」と公言しています。

こうした事態を受けて、PRIME と ICRC 駐日代表部は、共同で本シンポジウムを緊急開催します。ICRC 駐日代表、国際人道法・刑事法の専門家およびパレスチナ問題の専門家とともに、長年続く人道上の悲劇の歴史的背景をひも解き、まさに今起こっている事態について国際人道法や政治的観点から問題提起し、討論します。また、参加者の皆さんとは、暴力の矛を収めるにはどうすればいいのか、日本からはどんな貢献ができるのか、一緒に考える時間を設けます。

日時：11 月 7 日（火） 18:00～20:00

場所：明治学院大学白金キャンパス 本館 10 階大会議室および Zoom ウェビナーを使用したハイブリッド開催

申し込み：要（Zoom ウェビナー参加希望者のみ） こちらの URL より申し込みください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_sxFxb0ZiQ-W0iDVTk8ibkQ

参加費：無料　使用言語：日本語

プログラム
第1部：基調報告
1　榛澤祥子（赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表）</p>
「いまイスラエルとガザで起こっていることー“国際人道法の守護者”の立場から」
2　早尾貴紀（東京経済大学教授）
「イスラエルにとってガザ地区とは何か？ー占領の本質を問う」
3　東澤靖（明治学院大学教授、PRIME 所員）
「憎しみと恐怖の戦争に、どう立ち向かうことができるのか」

第2部：パネルディスカッションと質疑応答
　モデレーター：阿部浩己（明治学院大学教授、PRIME 所長）

共催：赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表部、明治学院大学国際平和研究所（PRIME）
（URL）